

スポーツ柔整科・柔道整復科 JT22A JT23A JT24A

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	生物学	講義	4	60	30	30				
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15				
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30				
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30					
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15				
専門基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ(運動器：骨格系、筋系)	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	30					
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15			
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15			
	必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15			
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					30	
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科概論	講義	2	30				30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
		必修	リハビリテーション医学Ⅱ(高齢者の運動機能維持・回復)	講義	1	15				15		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30						30
	保健医療福祉 と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	2	30						30
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60						30
		必修	職業倫理	講義	1	15						15
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
	必修	柔道Ⅳ	実技	1	30						30	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15			15			
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	15	45				
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15				
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ(外傷保存療法経過及び治癒の判定)	講義	2	60					30	30
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ(物理療法機器の取扱い)	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ(柔道整復術の臨床的判定・医用画像)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ(機能訓練指導)	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅹ	講義	1	30						30
		必修	臨床柔道整復学Ⅺ	講義	1	30						30
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ(臨床実習前施術試験等)	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅳ(高齢者の外傷予防)	実技	1	30						30
必修		柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30			
必修		柔道整復実技Ⅵ(競技者の外傷予防)	実技	1	30				30			
必修		柔道整復実技Ⅶ	実技	1	45			45				
必修		柔道整復実技Ⅷ(機能訓練指導実技)	実技	1	30						30	
必修		柔道整復実技Ⅸ(スポーツコンディショニング実技)	実技	2	60						30	
必修		柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60						30	
必修		柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60						30	
臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45					
	必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
	必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
	必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45		
合計					107	2775	435	480	480	480	480	420

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生物学 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学、生理学、病理学を理解する上で必要な生物の細胞について、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な知識と用語を学び、解剖学・生理学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

前期では試験を 90%、平常点を 10%として成績を出し、後期でも試験 90%、平常点 10%で評価します。最終的に前期と後期の成績を平均して 60%以上であれば合格とします。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように少しでもいいので復習を行なってください。

7 使用教材，教具

テキストとして毎回プリントを配ります。それと「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版を行います。毎回持って来てください。

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきて、やる気をなくすかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずですが、初めは大変でも後からは必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾 泰博 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (生物学)

回数	授業内容
1	自然発生説の否定、生命の起源
2	細胞の成分 (タンパク質、糖質、脂質)
3	無機塩類、水、細胞の構造 (細胞壁)
4	細胞の構造 (核〜リソソーム)、細胞骨格
5	細胞外基質、細胞膜、細胞接着、半透膜
6	浸透圧、選択的透過性、受動輸送
7	能動輸送、膜動輸送、呼吸
8	好気呼吸、解糖系〜電子伝達系、嫌気呼吸
9	脂肪・タンパク質からのエネルギー、呼吸商、細胞分裂前期
10	細胞分裂終期まで、減数分裂、配偶子の多様性、命の始まり
11	不分離と異数性、ヒトの生殖細胞の形成
12	メンデルの遺伝法則 (優性の法則、分離の法則)
13	メンデルの実験の検証、複対立遺伝子
14	Rh 式血液型、伴性遺伝、常染色体遺伝
15	中間試験
16	試験解説、胚葉の分化、国試過去問
17	DNA の構造、DNA と染色体
18	半保存複製、DNA の複製、テロメア、PCR
19	DNA の修復、RNA の種類と働き、暗号解読
20	タンパク質の合成、突然変異 (前半)
21	突然変異 (後半)、形質発現の調整 (前半)
22	形質発現の調整 (後半)、遺伝子変異とがん (ウイルスによる)
23	ウイルスについて、遺伝子変異 (生活習慣、遺伝性)、がんにかかわる遺伝子
24	遺伝子組み換え、制限酵素、プラスミド、tPA
25	ゲノム編集、遺伝子治療、クローン動物 (前半)
26	クローン動物 (後半)、再生医療、ヒトゲノム計画
27	生体防御システム、非特異的防御、炎症反応 (前半)
28	炎症反応 (後半)、特異的防御、抗体、B 細胞、T 細胞
29	MHC タンパク質、液性免疫、細胞性免疫
30	アレルギー、ワクチン、自己免疫疾患
31	定期試験
32	心と体、試験解説、国試過去問

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

栄養素の生理的作用、エネルギー源としての役割と消化・吸収されるしくみについて、基本事項を学習する。

2 到達目標

栄養素の作用、消化器系の構造、栄養素が消化吸收・代謝されるしくみを説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。
また、理解度の確認のため適宜、授業内で小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 10%、中間試験成績・定期試験成績 90%の割合で、中間評価と後期評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%、後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

栄養素の摂取と利用をテーマに、解剖学と生理学の内容を結びつけながら学習を進める。

9 教員氏名 （ 山邊 芳久 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (栄養学)

回数	授業内容
1	栄養素の性質 (1) 糖質 タンパク質 アミノ酸
2	栄養素の性質 (2) 脂質 トリグリセリド 脂肪酸 リポタンパク
3	栄養素の性質 (3) ビタミン欠乏症 栄養素の代謝 (1) ATP の構造
4	栄養素の代謝 (2) 解糖系 クエン酸回路 電子伝達系
5	栄養素の代謝 (3) 栄養素代謝 吸収期と空腹期 糖新生
6	栄養素の代謝 (4) 呼吸商 アトウォーター係数 基礎代謝
7	消化器系の構造 (1) 消化器系の構成 消化管の基本構造
8	消化器系の構造 (2) 口腔 (構造)
9	消化器系の構造 (3) 口腔 (唾液腺 歯)
10	消化器系の構造 (4) 口腔 (舌 舌乳頭)
11	消化器系の構造 (5) 咽頭 ワルダイエルの咽頭輪 食道
12	消化器系の構造 (6) 嚥下 腹膜 間膜
13	消化器系の構造 (7) 胃 噴門と幽門 胃底 小彎と大彎
14	消化器系の構造 (8) 胃 胃腺
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	消化器系の構造 (9) 小腸 (十二指腸 空腸 回腸 絨毛)
18	消化器系の構造 (10) 小腸 (盲腸 バウヒン弁 虫垂 結腸)
19	消化器系の構造 (11) 大腸 (結腸ヒモ 直腸 肛門括約筋)
20	消化器系の構造 (12) 肝臓 (肝小葉 類洞)
21	消化器系の構造 (13) 肝臓 (胆汁流路) 胆嚢
22	消化器系の構造 (14) 膵臓 (膵管 ランゲルハンス島)
23	消化器系の機能 (1) 消化器系の構成 機械的消化 化学的消化
24	消化器系の機能 (2) 口腔, 咽頭, 食道の機能 咀嚼と嚥下
25	消化器系の機能 (3) 胃, 小腸, 大腸, 肝臓, 胆嚢, 膵臓の機能
26	消化器系の機能 (4) 消化管運動と消化液分泌の調節
27	消化・吸収のしくみ (1) 糖質 唾液 膵液 膜消化 担体
28	消化・吸収のしくみ (2) 蛋白質 胃液 膵液 膜消化 担体
29	消化・吸収のしくみ (3) 脂質 乳化とミセル 膵液 膜消化 カイロミクロン
30	まとめ復習 (消化器系の機能, 消化・吸収のしくみ)
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療コミュニケーション ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

医療人として患者とより良いコミュニケーションを取るために、コミュニケーションの重要性やスキルと学習する。また、相手との会話を成立させるためには、正しい日本語を正しい表現力で伝えられなければならない。日常会話はもとより、医療専門用語をどれだけ相手にわかりやすく表現し伝えられるか、という能力を高める。

2 到達目標

相手の話を聞いて、適切に対応できるか。その基本となる会話力を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

配布資料を基に、語彙力を身につけるために読み書き、コミュニケーション能力を養うためにグループワーク形式などを行う。

4 成績評価方法・基準

テスト（レポート）80%、授業態度20%で評価

5 評価の際の特記事項

授業態度は出席状況・参加態度・欠席にて評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

配布する資料や演習課題をよく読み、わからない点は積極的に質問して解消するようにしてください。

7 使用教材，教具

配布資料

8 学生へのメッセージ

コミュニケーションは様々な場面で必要とされます。特に医療に従事する人は不可欠な要素です。そのことを自覚し、医療者となるべく邁進してください。

9 教員氏名（ 福田 鉄雄 ）

所属（ 長崎南山高等学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 医療コミュニケーション ）

回数	授業内容
1	ガイダンス
2	プレイスメントテスト
3	コミュニケーションとは
4	コミュニケーションの手段
5	コミュニケーションを取るメリットと重要性
6	医療コミュニケーションとは
7	社会人にとっての敬語
8	マナーの重要性
9	医療接遇について
10	医療の基本スキル コミュニケーション能力
11	語彙力とは
12	漢字の読み書き
13	医療におけるコミュニケーション
14	前期復習
15	中間試験
16	試験解説・解答
17	医学用語集演習
18	演習問題（1） 患者誘導
19	演習問題（2） 自己紹介
20	演習問題（3） 共感的態度、理解的態度
21	演習問題（4） 判断的態度、評価的態度
22	演習問題（5） 開放型質問、閉鎖型質問
23	演習問題（6） 重点的質問、多項目質問
24	演習問題（7） 相手に対する説明の仕方（一般）
25	演習問題（8） 相手に対する説明の仕方（子ども）
26	演習問題（9） 読みやすい文章の作り方
27	デイリーノート作成方法
28	レポート作成方法
29	心が動くコミュニケーション方法
30	後期復習
31	定期試験
32	試験解説・解答

シラバス（授業計画書）

科目名（ 情報リテラシー ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

コンピュータ演習の前半では、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべきパワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Wordでの表やグラフ作成の基礎とExcelの連携について学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来る。また、プレゼンや報告書の制作スキルを習得します。

3 授業の方法

PC室にて、講師用PCをプロジェクターに写し、捜査方法を同時に行いながら修得します。また、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%、授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、PC室の空き時間は自由にPCが使用可能である為、事前に教科書の予習・復習をしてください。

7 使用教材，教具

「よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021」 FOM 出版

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」をMicrosoft社の「Office2019」を使用して基礎から学習します。今回はWord、Excel、PowerPointを基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9 教員氏名（ 松本 雅美 ）

所属（ ころろ未来高等学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (情報リテラシー)

回数	授業内容
1	自己紹介 PC 室の説明 授業内容の説明
2	第 1 章 word2021 第 2 章 文書作成 STEP1～4
3	第 2 章 STEP5～8
4	第 3 章 グラフィック
5	第 4 章 表のある文書作成
6	第 5 章 Excel 第 6 章データ入力 STEP1～3
7	第 6 章 STEP4～6
8	第 7 章 表の作成
9	第 8 章 Excel グラフ作成
10	第 9 章 データ分析
11	第 10 章 PP 第 11 章プレゼン作成
12	第 12 章 スライド実施
13	第 13 章 データ連携
14	総まとめ
15	定期試験
16	答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医用英語 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

グローバル化が加速する中、日本国内に居住する外国人の数は増加しています。同時に海外、特に開発途上の国々では、日本人の医療スタッフが多数活躍しています。外国人患者との意思疎通のために、英語運用能力を基礎からマスターします。

2 到達目標

前期は、前半に日常生活を送るうえで、欠くことのできない表現を場面別に習得し、運用練習を行います。コミュニケーションの難しさを克服し、意思疎通がスムーズに行えた時の喜びを体得しましょう。「外国語」という障壁（バリア）をできるだけ取り除きましょう。後半は、テキストを使用し、実際の業務で頻繁に使用される表現を場面別に習得し、運用練習を行います。

後期も、引き続きテキストを使用します。外国人患者の信頼を獲得し、安心して治療を受けられるようコミュニケーションスキルを高めます。

3 授業の方法

基本的な流れは、「表現習得」⇒「ペア練習」の形をとります。さまざまな表現を習得した後、ペアで練習を行い、コミュニケーション能力を高めます。なお授業予定は、進捗状況によって変更となる場合があります。

4 成績評価方法・基準

定期試験及び課題 80%、授業での活動・参加状況 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験はもちろん重要ですが、出席状況・授業中の取り組み（ペア練習）を上記の割合で加味し、総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業以外では、普段から声に出して学んだ内容を復習してください。

7 使用教材、教具

前期は、オリジナルの教材を配布し使用します。各授業の前に配布されますので、バインダーに入れて、保管してください。

後期は、テキスト「柔道整復師のための英会話表現」・「オリジナル文例集」・「筋肉名（上肢・下肢・体幹）」を使用します。

8 学生へのメッセージ

英語の得意・不得意は問いません。学生の皆さんの前向きな取り組みを期待しています。「英語検定」等の資格試験へチャレンジしてみることをお勧めします。

9 教員氏名（ 白石 克文 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 医用英語 ）

回数	授業内容
1	コミュニケーション英語の重要性と自己紹介
2	全員の自己紹介とそれに対する総評
3	日本語にない英語の発音と日常的なあいさつ
4	気分・調子・体調についての表現
5	お礼をいう（基本・応用表現）
6	申し訳ない気持ちを伝える
7	アドバイスを求める・与える
8	誘う・応じる・断る表現
9	電話をかける・受ける・電話での様々な応対
10	とっさの時に役立つ表現
11	英会話表現テキスト P01～05 オリジナル文例集
12	英会話表現テキスト P06～09 オリジナル文例集
13	英会話表現テキスト P10～14 オリジナル文例集
14	英会話表現テキスト P15～18 オリジナル文例集 中間試験対策
15	中間試験
16	英会話表現テキスト P19～21 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
17	英会話表現テキスト P22～26 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
18	英会話表現テキスト P27～31 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
19	英会話表現テキスト P32～38 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
20	英会話表現テキスト P39～48 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
21	英会話表現テキスト P49～54 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
22	英会話表現テキスト P55～57 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
23	英会話表現テキスト P58～63 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
24	英会話表現テキスト P64～65 オリジナル文例集 筋肉名(体幹)
25	英会話表現テキスト P66～76 オリジナル文例集 筋肉名(体幹)
26	英会話表現テキスト P77～84 オリジナル文例集 筋肉名(体幹)
27	後期試験対策 筋肉名（上肢・下肢）まとめ
28	後期試験対策 筋肉名（体幹）まとめ
29	後期まとめ
30	英会話表現テキスト P19～21 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
31	定期試験
32	答案返却・解答・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

人体の骨格および筋肉について学習する。

2 到達目標

人体の骨格の構造と筋肉の起始停止やその作用について理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。骨および筋の模写。

4 成績評価方法・基準

定期試験の成績を 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動器は施術所などで治療する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

9 教員氏名 （ 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖学 I ）

回数	授業内容
1	解剖学総論
2	骨格系 総論 身体構造の全体像
3	脊柱の構造
4	胸郭の構造
5	上肢骨 1 上肢帯（鎖骨、肩甲骨）
6	2 上腕骨、橈骨、尺骨
7	3 手根骨
8	下肢骨 1 下肢帯（寛骨）
9	2 大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨
10	3 足根骨
11	頭蓋骨 1 脳頭蓋
12	2 顔面頭蓋
13	前期まとめ① 骨総論、四肢の骨
14	前期まとめ② 軸骨格、頭蓋骨
15	中間試験
16	試験解説
17	筋系 総論
18	体幹の筋 1 胸部、腹部
19	2 背部
20	上肢の筋 1 上肢帯、上腕屈筋・伸筋
21	2 前腕屈筋
22	3 前腕伸筋
23	下肢の筋 1 下肢帯
24	2 大腿伸筋・屈筋・内転筋
25	3 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
26	頭頸部の筋 1 表情筋
27	2 咀嚼筋
28	後期まとめ① 上半身の筋
29	後期まとめ② 下半身の筋
30	後期まとめ③ 頭頸部の筋
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

解剖学を学習する上で必要となる用語や身体構造の成り立ちについて概説する。脈管系および内臓系（消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系）について学習し、生命活動の根幹を担う器官の形態・構造を理解する。

2 到達目標

解剖学を学習する意義を理解し、基礎医学を学習するうえで求められる人体構造への理解と尊敬を身につける。

3 授業の方法

教科書の内容を中心として、PC プロジェクタを利用したスライドによる講義を行う。スライド内容についてはレジュメ資料を配布し、講義内容理解の補助とする。随時小テストを実施し、講義内容の理解を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験の成績を 80%、小テストの成績合計を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

小テストを平常点とするため、欠席が多いと平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を重視する。講義理解度確認のために重要な箇所については国家試験形式の小テストを実施する。自己採点評価を通じて知識の補完を図るとともに、国家試験に向けた自主学習法を習得する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は医療を学ぶ全ての学生が通過しますが、おぼえなければならないことの多さと皆が苦勞するところです。近代解剖学の歴史は 500 年にも及び、得られた知見は膨大です。それ故全てを網羅することには困難が伴いますが、同時に知識の宝庫としての面白さもあります。苦しい中でも楽しみを見つけつつ知識を深めていきましょう。

9 教員氏名 （ 井川 一成 ）

所 属 （ 常岡歯科診療所 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (解剖学Ⅱ)

回数	授業内容
1	人体解剖学概説 A 意義と分類
2	B 細胞および組織(組織) C 発生
3	D 器官系統 E 人体の区分
4	脈管系 A 総論
5	B 心臓
6	C 心脈管系
7	動脈系(体循環、肺循環)
8	動脈系(上肢)
9	動脈系(下肢)
10	静脈系(伴行静脈)
11	静脈系(奇静脈系)
12	D リンパ系
13	前期復習 動脈系
14	前期復習 静脈系
15	中間試験
16	試験解説
17	内臓系 A 消化器(構造)
18	A 消化器(歯・舌・咽頭・食道)
19	A 消化器(胃・小腸)
20	A 消化器(結腸・肝臓)
21	A 消化器(胆嚢・膵臓・腹膜・呼吸器)
22	B 呼吸器(気管支)
23	B 呼吸器(肺)
24	C 泌尿器(腎臓)
25	C 泌尿器(尿管・膀胱・尿道)
26	D 生殖器(構造)
27	D 生殖器(男性生殖器)
28	D 生殖器(女性生殖器)
29	後期復習 消化器系、呼吸器系
30	後期復習 泌尿器系、生殖器系
31	定期試験
32	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (生理学 I)

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

生理学の前半として「生理学の基礎」「筋」「神経」「運動」「感覚」「内分泌」「生殖」について学ぶ。また味覚の体験実習を1回行なう。

2 到達目標

- ・生理学の位置づけを理解する。
- ・筋肉の機能を説明できる。
- ・神経の基本的機能を説明できる。
- ・運動系の機能を説明できる。
- ・感覚器系の機能を説明できる。
- ・内分泌系の機能を説明できる。
- ・生殖器系の機能を説明できる。

3 授業の方法

教科書やパワーポイント・プリントを用いて授業を進める。その日の授業で学んだことを確認できるよう授業途中または最後に小テストを行う。また單元ごとに国家試験問題を用いて問題演習を行うことにより、知識習得の確認と定着を行う。さらに項目「感覚の生理」では特殊感覚である味覚の実習を行い、味覚障害を体験することにより理解を深め、生理学への興味を引き出す。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、平常点（出席および小テスト）を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

前期と後期に分けて2回、定期テストを行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

單元ごとに教科書および配布プリントを用いて、復習を中心とした学習を行ってください。授業で配布した国家試験問題は必ず復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

初めて生理学の教科書を読んでもひとりで理解することは難しいかもしれません。しかし生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶ、とても身近な学問です。「生きる」ということがどんなに素晴らしいメカニズムで成り立っているかを感じ、興味を持って取り組んでもらえるよう、わかりやすい授業を心がけますので、授業のできる限り学び取ってください。

9 教員氏名 (藤山 理恵)

所属 (長崎大学生命医科学域総合歯科臨床教育学分野)

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容	
1	1. 生理学とは	A 細胞の構造と機能 前半
2		A 細胞の構造と機能 後半
3		B 組織・器官と生体の機能系
4		C 生体の恒常性と統合機能
5		D 体液の区分と組成
6	2. 筋の生理	A 骨格筋 前半
7		A 骨格筋 後半
8		B 心筋
9		C 平滑筋
10	3. 神経の生理	A 神経信号の伝達
11		B 神経系の構成
12		C 脳の高次機能
13		D 内蔵機能の調節
14	前期まとめ	
15	中間試験	
16	答案返却・解説	
17	4. 運動の生理	A 運動の調節 B 運動神経と運動単位
18		C 脊髄による反射とその調節
19		D 脳幹による運動調節 E 高次運動機能
20	5. 感覚の生理	A 感覚の一般的な特性
21		B 特殊感覚 味覚の体験実習
22		C 体性感覚
23		D 内臓感覚 E 痛覚
24	6. 内分泌	A 内分泌腺とホルモン
25		B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 前半
26		B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 後半
27		C ホルモンによる内部環境の恒常性の維持
28	7. 生殖	A 性分化 B 男性生殖器
29		C 女性生殖器 D 妊娠と分娩
30	後期まとめ	
31	定期試験	
32	答案返却・解説	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

人体の基本的な仕組みについて、解剖学と生理学を統合して総合的に理解する。

2 到達目標

人体の仕組みの基本的な用語について、簡単に説明できるようになる。

3 授業の方法

簡単なプリントを配付し、スライドを使って解説する。 ※2024年度はオンライン授業

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

別に授業で行われている解剖学と生理学と合わせて学習する。

7 使用教材，教具

「のほほん解剖生理学」（永岡書店）

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）

全国柔道整復学校協会監修「解剖学」

8 学生へのメッセージ

別に授業がある解剖学と生理学で理解が難しい内容があれば、特に取り上げて解説する。

9 教員氏名 （ 藤村 幸一 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (解剖生理学 I)

回数	授業内容
1	解剖生理学とは
2	細胞
3	皮膚と膜
4	血液循環
5	神経
6	感覚器
7	内分泌
8	骨格と筋
9	呼吸器
10	消化器
11	泌尿器
12	生殖器
13	免疫
14	おさらい
15	定期試験
16	解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

相対する二人が、互いに相手の動きに応じて技能を競い合う格闘形式の運動であるので、相手を尊重し安全に練習や行動ができる能力を育てる。

2 到達目標

基本動作（移動、崩し）と受身の習得を中心に学習させ、個人の体力、能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術の習得を目標とする。

3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版のほか、資料を適宜配布する。

8 学生へのメッセージ

初心を忘れず、怪我に注意して毎回の授業に取り組んで下さい。

9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（柔道Ⅰ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	礼法、後受身
3	横受身、前方受身
4	前回受身
5	組み方、体さばき
6	形（浮落）
7	形（背負投）
8	形（肩車）
9	形（払腰）
10	形（浮腰）
11	形（釣込腰）
12	形（送足払）
13	形（支釣込足）
14	形（内股）
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

総論は関節損傷および軟部組織損傷を学び、各組織の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。

各論では、上肢脱臼へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら関節や軟部組織損傷を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	業務範囲と心得
2	柔道整復師倫理綱領
3	関節の構造と機能
4	関節部損傷の概説
5	関節部損傷の分類
6	鑑別診断を要する類症
7	脱臼（定義と概説、発生頻度）
8	脱臼（分類①関節の性状～関節面相互の位置）
9	脱臼（分類②数～外力の働いた部位）
10	脱臼（分類③発生時期～経過）
11	脱臼（症状、合併症）
12	脱臼（整復障害）
13	脱臼（経過と予後）
14	関節構成組織損傷
15	中間試験
16	試験解説
17	鎖骨脱臼
18	肩関節脱臼（前方、反復性）
19	肩関節脱臼（後方、下方、上方）
20	肘関節脱臼（後方）
21	肘関節脱臼（後方、側方、分散）
22	橈骨頭脱臼、肘内障
23	手関節脱臼
24	月状骨脱臼
25	手根中手関節脱臼
26	第1指中手指節関節脱臼
27	第1指以外の中手指節関節脱臼
28	近位指節間関節脱臼
29	遠位指節間関節脱臼
30	上肢脱臼まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

総論は骨折損傷を学び、骨の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。

各論では、頭部や体幹骨折へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら骨の構造や役割を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱う骨折の損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術および柔道整復師の沿革
2	人体に加わる力
3	損傷時に加わる力
4	骨の形態と機能
5	骨損傷の概説
6	骨折部の分類（骨の性状～骨折線の方向）
7	骨折部の分類（創部との交通の有無～外力の働いた部位）
8	骨折部の分類（外力の働き方～骨折部位）
9	骨折の症状（一般症状）
10	骨折の症状（固有症状）
11	骨折の合併症（併発症）
12	骨折の合併症（続発症）
13	骨折の合併症（後遺症）
14	前期のまとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	小児骨折
18	高齢者骨折
19	骨折の治癒経過
20	骨折の予後
21	骨折の治癒に影響を与える因子
22	頭蓋骨骨折
23	顔面頭蓋骨骨折
24	上位頸椎骨折
25	中・下位頸椎骨折
26	胸椎骨折
27	腰椎骨折
28	肋骨骨折
29	胸骨骨折
30	後期のまとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

前期は総論の筋、腱、末梢神経損傷を学び、各組織の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。また、診察方法や外傷の予防方法も学び適切な指導を行うための知識を習得する。

後期では、柔道整復師が実際に行う後療法について知識へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら筋、腱、末梢神経の構造や役割を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱うそれらの損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。また、実際に施術所で行っている後療法についても意義や説明を行えるようになることを目標とする。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」第2版 南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 / 舘川 大輔 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	痛みの基礎
2	筋の損傷（構造と機能～概説）
3	筋の損傷（分類）
4	筋の損傷（症状）
5	筋の損傷（治癒機序～予後）
6	腱の損傷（構造と機能～概説）
7	腱の損傷（分類）
8	腱の損傷（症状）
9	腱の損傷（治癒機序）
10	末梢神経の損傷（構造と機能～概説）
11	末梢神経の損傷（分類）
12	末梢神経の損傷（症状）
13	末梢神経の損傷（治癒機序）
14	診察（注意点～分類）
15	治療計画の作成
16	施術録の扱いと記載
17	外傷予防（第一段階）
18	外傷予防（第二段階）
19	外傷予防（第三段階）
20	患者の姿勢および歩行の観察
21	全身状態の観察
22	主訴、原因の聴取
23	既往歴、家族歴の聴取
24	生活様式、障害状況の聴取
25	疼痛の聴取
26	観察（変形、腫脹）
27	観察（アライメント）
28	観察（色）
29	観察（筋）
30	観察（皮膚）
31	中間試験
32	試験解説

回数	授業内容
33	後療法 容量
34	後療法 患者の準備
35	手技療法 (基本法)
36	手技療法 (適応、禁忌)
37	運動療法 (基本型)
38	運動療法 (種類)
39	運動療法 (実際)
40	物理療法 (電気療法)
41	物理療法 (温熱療法)
42	物理療法 (光線療法、寒冷療法)
43	物理療法 (牽引療法、その他)
44	指導管理 (患者と環境の把握)
45	指導管理 (環境に対する指導)
46	指導管理 (自己管理に対する指導)
47	定期試験
48	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な上肢骨折（鎖骨～前腕骨）の知識を深め、担当教員の実務経験を基にした患者への接し方、所見の取り方、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (基礎柔道整復学Ⅳ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折
2	肩甲骨骨折 1 体部および上・下角骨折
3	2 関節窩骨折
4	3 頸部骨折
5	4 肩峰骨折
6	5 烏口突起骨折
7	上腕骨近位部骨折 1 骨頭骨折
8	2 解剖頸骨折
9	3 外科頸骨折
10	4 大結節単独骨折
11	5 小結節単独骨折
12	6 近位骨端線離開
13	前期まとめ① (鎖骨、肩甲骨骨折)
14	前期まとめ② (上腕骨近位部骨折)
15	中間試験
16	試験解説
17	上腕骨骨幹部骨折
18	上腕骨遠位部骨折 1 顆上骨折
19	2 外顆骨折
20	3 内側上顆骨折
21	前腕近位部骨折 1 橈骨近位端部骨折
22	2 肘頭骨折
23	前腕骨骨幹部骨折 1 橈骨骨幹部骨折
24	2 ガレアジ骨折
25	3 尺骨骨幹部骨折
26	4 モンテギア骨折
27	5 橈・尺両骨骨幹部骨折
28	前腕骨遠位端部骨折
29	後期まとめ① (上腕骨骨幹部、遠位端部骨折)
30	後期まとめ② (前腕骨骨折)
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

外傷の治療法（整復法・固定法）、患者の指導管理を学び、臨床現場に活用できる知識を習得する。

各論では顎関節、脊椎の脱臼へと学習を進めていく。

2 到達目標

柔道整復師が行える治療法の基礎を理解することを目標とする。

外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に予習を行っておいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点はその都度質問をして吸収してください。

9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	整復法とは
3	A 徒手整復施行時の配慮
4	B 骨折の整復法
5	C 脱臼の整復法
6	D 徒手整復後の確認と配慮
7	E 軟部組織損傷の初期処置
8	固定法とは
9	A 固定施工時の配慮
10	B 固定後の配慮
11	指導管理とは
12	A 患者とその環境の把握
13	B 患者の環境に対する指導管理
14	C 自己管理に対する指導
15	中間試験
16	試験解説
17	頭部、顔面の脱臼 概説
18	A 顎関節脱臼 1 前方脱臼
19	2 後方脱臼
20	3 側方脱臼
21	B 頸椎脱臼 1 環軸関節の脱臼および脱臼骨折（概説）
22	1 環軸関節の脱臼および脱臼骨折（整復法）
23	2 下位頸椎の脱臼および脱臼骨折（概説）
24	2 下位頸椎の脱臼および脱臼骨折（整復法）
25	C 胸椎の脱臼 1 胸椎部脱臼骨折（概説）
26	1 胸椎部脱臼骨折（整復法）
27	2 胸腰椎移行部脱臼骨折（概説）
28	2 胸腰椎移行部脱臼骨折（整復法）
29	D 腰椎の脱臼（概説）
30	D 腰椎の脱臼（整復法）
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の基礎となる包帯法、軟性材料、硬性材料について基本技術を修得する。

2 到達目標

基本包帯法、冠名包帯法などの技法を修得し各部位への包帯固定ができる。テーピングの基礎を修得する。軟性材料、硬性材料の特性を知る。

3 授業の方法

教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

実技授業は実習着を着用して臨むこと。着用していない場合は出席を認めない。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間以外の反復練習が技術向上の鍵です。様々な体型・体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大切です。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」第2版 南江堂

8 学生へのメッセージ

実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、施術法習得の一環として確実に基礎が身に付くように努力をしてください。実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (柔道整復実技 I)

回数	授業内容
1	実習の受け方 包帯固定学
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	1 環行帯
5	2 螺旋帯
6	3 蛇行帯
7	4 折転帯
8	5 亀甲帯
9	6 麦穂帯
10	デゾー包帯法
11	デゾー包帯法 復習
12	ヴェルポー包帯法
13	ジュール包帯法
14	三角巾を用いた固定
15	中間試験
16	試験解説
17	各部位への包帯法 1 肩関節
18	2 肘関節
19	3 前腕部
20	4 手関節 5 指
21	6 膝関節
22	7 下腿部
23	8 足関節
24	9 体幹部
25	テーピング 1 足関節
26	2 膝関節
27	3 肘関節
28	4 肩関節
29	5 指
30	6 下腿部
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術として必須である、診察法について学ぶ。

2 到達目標

柔道整復師として必要なコミュニケーション能力や解剖学の知識を基に、臨床現場で実践できる問診の技術を身に付けることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、基本の診察法をロールプレイで通して行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

45分授業になるので、各自予習、復習を心がけてください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編改定第2版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

実技授業になるので、白衣は必ず着用すること。臨床力を身に付けるため、まじめに実技実習に取り組むこと。白衣は常に清潔を心掛けること。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外す。女子は髪を後ろにまとめること。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷の施術
3	観察および問診
4	視診（皮膚、筋肉）
5	視診（歩容、代償運動）
6	触診（骨）
7	触診（筋肉）
8	触診（脈管）
9	触診（神経）
10	機能的診察
11	合併症の有無
12	説明と同意（損傷や疾患の状況）
13	説明と同意（予想される経過）
14	説明と同意（施術や整復の必要性）
15	中間試験
16	試験解説
17	肩部外側からの打撃による損傷の診察
18	肩部前方または前外方からの打撃による損傷の診察
19	肩部後方または後外方からの打撃による損傷の診察
20	肩峰部の打撃による損傷の診察
21	肩甲骨部の打撃による損傷の診察
22	肩関節外転位で手掌部を衝いて生じた損傷の診察
23	肩関節内転位で肘部を衝いて生じた損傷の診察
24	肩関節外転位で肘部を衝いて生じた損傷の診察
25	明確な原因のない損傷の診察 1 野球
26	2 バレーボール
27	3 テニス
28	4 水泳
29	5 体操競技
30	6 重量物
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術として固定具の知識を習得し、症状に応じた固定法の実践力や固定具の作成を行う。

2 到達目標

柔道整復術で行う固定材料の種類や特性を学び、それらの実践技術を習得することを目標とする。

3 授業の方法

実技実習を行い、固定法を身に付ける。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間を作る。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

固定法の習得には基礎練習が大切になります。基礎を身に付ける努力をしてください。実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	固定の目的
2	固定材料の種類 1 硬性材料
3	2 軟性材料
4	厚紙副子の使い方（上肢）
5	厚紙副子の使い方（下肢）
6	厚紙副子の使い方（体幹）
7	クラーメル副子の使い方（上肢）
8	クラーメル副子の使い方（下肢）
9	アルミ副子の使い方
10	ギプスの作成手順
11	吸水硬化性キャスト材の使い方
12	熱可逆性キャスト材（ロール）の使い方
13	熱可逆性キャスト材（板状）の使い方
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	鎖骨骨折の固定方法（注意点）
18	鎖骨骨折の固定方法（流れ）
19	上腕骨外科頸骨折の固定方法（注意点）
20	上腕骨外科頸骨折の固定方法（流れ）
21	コーレス骨折の固定方法（注意点）
22	コーレス骨折の固定方法（流れ）
23	肋骨骨折の固定方法（注意点）
24	肋骨骨折の固定方法（流れ）
25	肩鎖関節上方脱臼の固定方法（注意点）
26	肩鎖関節上方脱臼の固定方法（流れ）
27	肩関節前方脱臼の固定方法（注意点）
28	肩関節前方脱臼の固定方法（流れ）
29	肘関節後方脱臼の固定方法（注意点）
30	肘関節後方脱臼の固定方法（流れ）
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
施術および施術所の運営についても見学する。

3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。
一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床実習 I)

回数	授業内容
	3月中の5日～9日間(45時間)の臨床実習を行う。